

授業概要

アメリカの中央銀行F R Bが大規模な金融緩和を終了しているのに、日本銀行は、逆に、金融緩和を進めていますので、円安基調に転換し、長かったデフレ不況が終息しつつあるといわれています。しかも、日米欧で株価が高騰し、まさに、株式バブルの様相を呈してきました。

しかし、中東では、過激派集団がI S（イスラム国）という国家の設立を宣言し、戦火が広がっています。

中国経済はじめ、新興国経済も変調をきたしています。

このように、世界経済が激動するなかで、日本でおこなわれてきたアベノミクスといわれるものがはたして有効なのか、ということについて議論します。とくに、金融・証券市場の仕組みを詳しく取り上げます。

本演習では、こうした世界と日本経済の実態、金融・証券市場の仕組みを理解できるように指導します。

授業計画

第1回	演習の概要	第16回	戦前の日本経済の特徴
第2回	世界経済の概要	第17回	日本の高度経済成長
第3回	アメリカ経済の歴史と現状	第18回	高度経済成長の終焉
第4回	アメリカ中央銀行の金融政策	第19回	資産バブル経済の生成
第5回	同	第20回	資産バブル経済の崩壊
第6回	アメリカの金融・証券市場	第21回	平成大不況への突入
第7回	同	第22回	金融ビックバンとは
第8回	ヨーロッパ経済の歴史と現状	第23回	同
第9回	欧州中央銀行の金融政策	第24回	日本銀行の異次元緩和
第10回	ヨーロッパのユニバーサルバンク	第25回	同
第11回	アジアと中国の経済と金融	第26回	アベノミクスの第一ステージ
第12回	中国経済のバブル崩壊	第27回	アベノミクスの第二ステージ
第13回	新興国経済の変調	第28回	日本経済のあり方
第14回	I S（イスラム国）の台頭	第29回	日本の金融・証券市場のあり方
第15回	対テロ戦争と新たな冷戦体制へ	第30回	演習のまとめ

到達目標

今の世界が、いったいどうなっているか、日本は、世界のなかでどのような位置にあるか、日本の経済はどのような方向に進むのがいいか。さらに、金融・証券市場とはなにか、実際の日米欧の金融・証券市場をわかってもらうことを、到達目標とします。

履修上の注意

世界と日本の経済と金融・証券市場の動きを取り上げますので、日々の新聞を読んでおいてください。

遅刻3回で欠席1回とします。

とくに、銀行や証券会社や保険会社など金融機関への就職を考えている学生は大歓迎です。

予習復習

取り上げるテーマについて事前に予習し、終わったら必ず復習をしてください。

評価方法

出席状況、演習に積極的に取り組んでいるか、発言や質問をおこなっているかによって評価します。

テキスト

テキストはとくに使用しません。適宜、新聞記事や資料を配布します。

授業概要

経済には、なぜ変動があるのでしょうか。それは、政府の経済運営が間違ってしまった結果なののでしょうか。多分にその要因はあるかとは思いますが、しかしながら、もしそうなのだとすれば、どこがどのように間違ってしまったのか、それを修正するためにはどうすればよいのか、については、経済の仕組みを理解する必要があります。なぜ好景気と不景気は交互にやってくるのか。不景気を克服するためにはどのような施策が求められるのか。そして、そもそも「景気」とは何か。

本基礎演習では、こうした経済の仕組みを理解するために、さまざまな角度から経済というものを考えられるように指導する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 17 回	回帰分析の方法 1
第 2 回	コンピューターの機能 1	第 18 回	回帰分析の方法 2
第 3 回	コンピューターの機能 2	第 19 回	回帰分析の方法 3
第 4 回	EXCEL の機能 1	第 20 回	回帰分析の方法 4
第 5 回	EXCEL の機能 2	第 21 回	回帰分析の方法 5
第 6 回	EXCEL の機能 3	第 22 回	回帰分析によるモデル分析 1
第 7 回	表の作成と計算 1	第 23 回	回帰分析によるモデル分析 2
第 8 回	表の作成と計算 2	第 24 回	回帰分析によるモデル分析 3
第 9 回	表の作成と計算 3	第 25 回	回帰分析によるモデル分析 4
第 10 回	表の作成と計算 4	第 26 回	回帰分析によるモデル分析 5
第 11 回	表の作成と計算 5	第 27 回	回帰分析による予測 1
第 12 回	適切なグラフの作成 1	第 28 回	回帰分析による予測 2
第 13 回	適切なグラフの作成 2	第 29 回	回帰分析による予測 3
第 14 回	適切なグラフの作成 3	第 30 回	回帰分析による予測 4
第 15 回	適切なグラフの作成 4	第 31 回	まとめ（授業内容の確認）
第 16 回	中間テスト	第 32 回	期末テスト

到達目標

経営現象や経済現象を理解するためには、データを適切に分析し、的確に解釈することが必要である。本講義では、そのために必要とされるデータ処理ができるようになることが到達目標である。さらに、パソコンでデータ処理をすることによって、コンピューターが社会において果たしている役割についても、理解してもらいたい。

履修上の注意

「基礎」演習とはいえ、あるいは「基礎」演習ゆえ、今後の専門科目を学ぶ上で基礎的な思考法を取得するためには、欠席、遅刻などは許されない。目に余るようなら、単位は永久に与えられることはない。

予習復習

毎回到わたって常に新しいデータを提示するので、取得したデータ分析の方法を適用して、予習と復習にあててもらいたい。毎回の講義の始まりに、課題について解説をする。

評価方法

毎回の参加状況、発表の準備状況、ならびに討議への参加状況などを踏まえて評価する。

テキスト

教科書については、できるだけ手に入りやすく、またできるだけ安価なものを考えている。したがって、基礎演習が開始された時点で、参考書を含めて指定することにする。

授業概要

この演習は、会計学の基礎を学習することを目的としている。具体的な学習内容は、複式簿記の基本原理や企業会計原則の考え方、国際会計基準への対応である。演習の進め方は、基本的には専門書の輪読する方法をとるが、新聞や雑誌などを通じて会計の基礎学力を強化も行う。秋期の演習は、専門演習に備え、レジュメの書き方や発表の仕方の取得も合わせて進める。

授業計画

第 1 回	会計学の意義	第 1 6 回	財務諸表の作成例と解説 1
第 2 回	複式簿記の仕組み	第 1 7 回	財務諸表の作成例と解説 2
第 3 回	会計の基礎的前提	第 1 8 回	財務諸表の作成例と解説 3
第 4 回	貸借対照表の仕組み	第 1 9 回	レジュメの書き方と発表の仕方
第 5 回	資産の評価と分類 1	第 2 0 回	各自のテーマの報告と討論 1
第 6 回	資産の評価と分類 2	第 2 1 回	各自のテーマの報告と討論 2
第 7 回	資産の評価と分類 3	第 2 2 回	各自のテーマの報告と討論 3
第 8 回	負債の評価と分類 1	第 2 3 回	各自のテーマの報告と討論 4
第 9 回	負債の評価と分類 2	第 2 4 回	各自のテーマの報告と討論 5
第 1 0 回	収益の評価と分類 1	第 2 5 回	各自のテーマの報告と討論 6
第 1 1 回	収益の評価と分類 2	第 2 6 回	各自のテーマの報告と討論 7
第 1 2 回	費用の評価と分類 1	第 2 7 回	各自のテーマの報告と討論 8
第 1 3 回	費用の評価と分類 2	第 2 8 回	会計制度の最近の動向 1
第 1 4 回	純資産の評価と分類	第 2 9 回	会計制度の最近の動向 2
第 1 5 回	春期のまとめ	第 3 0 回	秋期のまとめ

到達目標

- ・ 簿記知識は日商簿記 3 級以上の水準に達すること。
- ・ 発表レジュメの作成及び発表能力の向上

履修上の注意

- ・ 毎回必ず出席してほしい。
- ・ 演習は参加型授業なので、積極的に、発言、議論してほしい。

予習復習

毎回の学習テーマについて予習及び復習をしてほしい。

評価方法

講義時の積極性やレジュメ・発表のでき具合等を考慮して、総合的に評価する。

テキスト

- ・ 開講時に指示する。
- ・ 必要に応じて、プリントなどを配布する。

授業概要

「日本経済新聞」の連載『私の履歴書』を教材に、松下幸之助、本田宗一郎、石坂泰三、中内功などの経営者の経営思想（経営観）に触れ、その「仕事の極意」、「プロフェッショナル論」、そして「人生の流儀」を学び、考え、議論することをおして、有名企業の創業者たちの言葉、考え方に触発され、履修者諸君の自由な発想とチャレンジ精神を高め、前向きな気持ちになるヒントを見つけることが目的である。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション（授業の内容、目標、進め方、評価方法などの説明）	第 16 回	春期の内容を振り返って、秋期の目標を設定する
第 2 回	世間の「常識」を覆した企業家たち（総論Ⅰ）	第 17 回	会社とは何か、なぜ働くのか（総論Ⅰ）
第 3 回	逆境を乗り越えた苦労人（総論Ⅱ）	第 18 回	必ず頭角を現す経営者の条件（総論Ⅱ）
第 4 回	大賀典雄（ソニー）	第 19 回	土光敏夫（石川島播磨重工業）
第 5 回	鈴木敏文（セブン&アイ・ホールディングス）	第 20 回	賀来龍三郎（キャノン）
第 6 回	本田宗一郎（ホンダ）	第 21 回	八尋俊邦（三井物産）
第 7 回	松下幸之助（パナソニック）	第 22 回	石坂泰三（東芝）
第 8 回	伊藤雅俊（イトーヨーカ堂）	第 23 回	大谷米太郎（大谷重工業）
第 9 回	市村清（リコー）	第 24 回	樋口廣太郎（アサヒビール）
第 10 回	立石一真（オムロン）	第 25 回	中内功（ダイエー）
第 11 回	宮崎輝（旭化成）	第 26 回	吉田忠雄（YKK）
第 12 回	安藤百福（日清食品）	第 27 回	（補充教材：新世代経営者たち——ソフトバンク・孫正義、楽天・三木谷浩史など）
第 13 回	議論：以上の経営者たちの共通点は何か、それぞれの特徴は何か。	第 28 回	議論：改めて考える——「会社とは何か、なぜ働くのか」
第 14 回	同上、つづき	第 29 回	同上、つづき
第 15 回	春期の内容のまとめ	第 30 回	秋期の内容のまとめ

到達目標

- 1、経営史の基礎知識を習得すること。
- 2、自分の考えや意見を正しくはっきりと他人に伝える力を身につけること。
- 3、著名な経営者・創業者たちの人生を振り返ることによって、自分の人生目標を考えること。

履修上の注意

- 1、報告者は分担内容のほか、テキスト以外の内容や統計データの補充が望ましい。
- 2、積極的に議論に参加せず、居眠り、無気力・無関心の履修者はマイナス評価になるので、注意してください。

予習復習

報告者でなくても必ず予定の内容を通読してください。

評価方法

出席はもちろんのこと、授業参加の真剣さや積極性、発表準備の状況および報告内容、授業態度、期末試験を総合して評価する。

テキスト

石田修大『私の履歴書 名語録』、三笠書房、2008 年、1500 円+税

授業概要

経営戦略を中心とした経営学領域の演習である。
企業経営の事例に基づき経営者が語る経営・戦略などについて書かれた文献等を理解するための演習を行う。
形式としては、分担にしたがって毎回担当者が発表し、全員で内容を吟味し議論するスタイルである。
これらを通じて、読解力・コミュニケーション能力・文章力など社会に出る前に身につけておくべき基礎能力の養成も図る。

授業計画

第 1 回	概要	第 16 回	グローバル経営－三菱ケミカル
第 2 回	業績回復－カルビー	第 17 回	プレゼンテーション④
第 3 回	業績回復－星野リゾート	第 18 回	人材育成－ローソン
第 4 回	業績回復－日本マクドナルド	第 19 回	人材育成－資生堂
第 5 回	プレゼンテーション①	第 20 回	人材育成－京都銀行
第 6 回	IT の活用－サイバーエージェント	第 21 回	プレゼンテーション⑤
第 7 回	IT の活用－ネットイヤーグループ	第 22 回	モノづくり－日本電産
第 8 回	IT の活用－松井証券	第 23 回	モノづくり－花王
第 9 回	プレゼンテーション②	第 24 回	モノづくり－テルモ
第 10 回	新市場開拓－オイシックス	第 25 回	プレゼンテーション⑥
第 11 回	新市場開拓－エイチ・アイ・エス	第 26 回	地方発企業－サラダボウル
第 12 回	新市場開拓－ジャパネットたかた	第 27 回	地方発企業－カイハラ
第 13 回	プレゼンテーション③	第 28 回	地方発企業－東北電子産業
第 14 回	グローバル経営－武田薬品工業	第 29 回	地方発企業－大垣共立銀行
第 15 回	グローバル経営－ユニ・チャーム	第 30 回	プレゼンテーション⑦

到達目標

- ・一定の文献読解力、文章力、コミュニケーション力を身につける。
- ・企業経営について関心を持ち、経営学領域・経営戦略分野で何を学ぶべきか理解する。

履修上の注意

- ・授業内で指定する文献を購入する必要がある。
- ・多くの文献を読みこなす。
- ・遅刻と欠席には厳しく対処する。

予習復習

予習には、レジュメの作成と文献の事前の精読を課す。
復習には、プレゼンテーション用資料の作成を課す。

評価方法

読解力・文章力・発言力の向上により評価する。

テキスト

日本経済新聞社編『経営者が語る戦略教室』日経ビジネス文庫

授業概要

この演習は、専門演習（3・4 年次）のための準備ないし基礎的な学力養成のための演習です。テキストをしっかり読み、その論旨を理解し、発表する。そして議論を踏まえたレジュメを作成する。こうした基礎動作を積み重ね、専門演習での研究に備えるのです。この演習では、企業情報の発信（IR）を素材に企業経営と金融・証券市場について学んで、専門演習に十分な基礎的な学力の習得を目指します。

授業計画

第 1 回	ガイダンス、自己紹介、報告当番	第 16 回	夏休みの課題発表（1）
第 2 回	第 1 章 IR と企業価値	第 17 回	夏休みの課題発表（2）
第 3 回	//	第 18 回	第 5 章株主・投資家と向きあう
第 4 回	第 2 章 成長戦略を支える	第 19 回	//
第 5 回	//	第 20 回	//
第 6 回	第 2 章のまとめ（報告と議論）	第 21 回	//
第 7 回	第 3 章 IR の実行と要点	第 22 回	第 5 章のまとめ（報告と議論）
第 8 回	//	第 23 回	第 6 章情報開示の留意点と課題
第 9 回	第 3 章まとめ（報告と議論）	第 24 回	//
第 10 回	第 4 章 経営トップを支える IR 組織	第 25 回	//
第 11 回	//	第 26 回	//
第 12 回	第 4 章まとめ（報告と議論）	第 27 回	//
第 13 回	第 5 章 株主・投資家と向き合う	第 28 回	第 6 章のまとめ（報告と議論）
第 14 回	//	第 29 回	個人テーマの発表
第 15 回	春期の小括	第 30 回	秋期の小括

到達目標

企業経営や金融証券市場に関連する専門演習でそれぞれの研究にスムーズに入っていける基礎学力の習得を到達目標とします。

履修上の注意

演習ではテキストの輪読と議論が基本です。そのため、①予習して、②レジュメを作成、③上手に発表、④積極的に議論に参加する、この 4 つが求められます。これらの点を十分理解した上で、履修してください。

予習復習

毎回、事前にテキストの予定の箇所や配布資料をしっかり読んで、そのレジュメを作成する。そして演習で発言しましょう。その復習で、次回の演習の準備が始まります。

評価方法

出席やレジュメ・発表、課題のでき具合等を考慮して、総合的に評価します。

テキスト

佐藤淑子『成功する IR 戦略』（日経文庫、定価 1,080 円）。
この授業を履修する人は、第 1 回の授業の前に購入しておいてください。

授業概要

授業内容は中級レベルの商業簿記と工業簿記を学習します。「初級簿記」を十分に理解していることが前提です。春期は主に商業簿記と工業簿記の論点整理と答案練習を行います。商業簿記では特殊商品売買、社債の処理、本支店会計と帳簿組織を確認します。また、工業簿記は費目別、部門別、総合原価、標準原価、直接原価を主に答案練習で学びます。学習目標は日商簿記検定 2 級合格水準です。秋期は総合問題に挑戦し 11 月の検定試験合格を目指します。後半は決算書の構造について学習します。実際の企業の財務諸表を読みます。この「基礎演習」から職業会計人の道も開かれます。将来、公認会計士、税理士を目指す人はもちろん国税専門官などの国家公務員、教職（高校商業科）そして本学大学院進学を希望する学生は受講してください。

授業計画

第 1 回	商業簿記の体系的学習のコツ	第 16 回	総合問題 1	合計残高試算表作成
第 2 回	論点学習 1（銀行勘定調整表と仕訳）	第 17 回	総合問題 2	合計残高試算表作成
第 3 回	論点学習 2（特殊商品売買）	第 18 回	総合問題 3	精算表の作成
第 4 回	論点学習 3（社債の会計処理）	第 19 回	総合問題 4	精算表の作成
第 5 回	論点学習 4（資本金会計）	第 20 回	総合問題 5	標準原価計算
第 6 回	論点学習 5（本支店会計）	第 21 回	総合問題 6	直接原価計算
第 7 回	論点学習 6（帳簿組織）	第 22 回	総合問題 7	CVP 分析
第 8 回	6 月主催「日商簿記」の解答解説	第 23 回	11 月主催「日商簿記」受験の反省会	
第 9 回	工業簿記の体系的学習のコツ	第 24 回	財務諸表の構造 1：貸借対照表	
第 10 回	論点学習 1（費目別計算）	第 25 回	財務諸表の構造 2：損益計算書	
第 11 回	論点学習 2（部門別原価計算）	第 26 回	財務諸表の構造 3：キャッシュフロー計算書	
第 12 回	論点学習 3（総合原価計算Ⅰ）	第 27 回	財務諸表の構造 4：トヨタ	
第 13 回	論点学習 4（総合原価計算Ⅱ）	第 28 回	財務諸表の構造 5：NTT ドコモ	
第 14 回	論点学習 5（標準原価計算）	第 29 回	財務諸表の構造 6：東京電力	
第 15 回	論点学習 6（直接原価計算）	第 30 回	財務諸表の構造 7：新日鐵住金	
春期	定期試験	秋期	定期試験	

到達目標

- ・中級レベルの簿記を習得すること。
- ・日商簿記検定 2 級試験に合格すること。

履修上の注意

- 1 エクステンションセンターの「日商簿記検定 3 級・2 級講座」を受講すること。
- 2 日商簿記検定試験の 6 月、11 月、2 月の何れかを受験すること。

予習復習

- ・予習、復習として次の学習方法を毎日練習して下さい。
- ・学習方法→ 1.テキスト目次の自己講義、2.テキスト基本問題 3 回攻略。3.過去問題集 3 回制覇。
- ・試験勉強の心がけ →「絶対あきらめない」こと。

評価方法

- ・毎回の授業参加と定期試験で総合的に採点評価する。
- ・授業態度不良者等は「不可」とする。

テキスト

開講日に公表します。

授業概要

日本をはじめとする多くの国々で高齢化が進む中、WHO の提唱する「健康寿命」（寝たきりや要介護状態にならず、元気に自立して暮らせる期間）を延伸する「健康寿命伸長産業」は今後我が国の主要産業となることが期待されています。男女とも世界一の「健康寿命」を誇る我が国の「健康ビジネス」についての理解を深めることを本演習の目的とします。大規模な市場が予測されている「高齢者向けビジネス」についても理解を深めていきます。また産業全体に「健康」というキーワードがどのように関わっているかについても考えていきます。さらに、文書作成や図表理解、コミュニケーションやプレゼンテーション能力の向上を目指します。

授業計画

第 1 回	業界研究（1）	第 16 回	レジャー産業と健康（1）
第 2 回	業界研究（2）	第 17 回	レジャー産業と健康（2）
第 3 回	健康業界研究（1）	第 18 回	ツーリズムと健康（1）
第 4 回	健康業界研究（2）	第 19 回	ツーリズムと健康（2）
第 5 回	レポート作成（1）	第 20 回	食品と健康（1）
第 6 回	レポート作成（2）	第 21 回	食品と健康（2）
第 7 回	図表の理解（1）	第 22 回	美容と健康（1）
第 8 回	図表の理解（2）	第 23 回	美容と健康（2）
第 9 回	健康業界の最新事情（1）	第 24 回	フィットネスと健康（1）
第 10 回	健康業界の最新事情（2）	第 25 回	フィットネスと健康（2）
第 11 回	健康業界の仕組み（1）	第 26 回	プレゼンテーション（1）
第 12 回	健康業界の仕組み（2）	第 27 回	プレゼンテーション（2）
第 13 回	ラウンド・テーブル・ディスカッション（1）	第 28 回	高齢者向けビジネス（1）
第 14 回	ラウンド・テーブル・ディスカッション（2）	第 29 回	高齢者向けビジネス（2）
第 15 回	健康ビジネス用語	第 30 回	まとめ：発表会

到達目標

- ・書く能力とプレゼンテーション能力の双方が上達する。
- ・健康業界が理解できる。
- ・健康ビジネスの種類や特徴が理解できる。
- ・高齢者ビジネスについて理解を深められる。

履修上の注意

積極的かつポジティブな思考の学生を歓迎する。

予習復習

やや専門的用語も多いので、復習の習慣を身につけるようにしてください。

評価方法

積極的出席点 50%、レポート 25%、プレゼンテーション 25%。

テキスト

川上清市 『図解入門業界研究 最新健康ビジネスの動向とカラクリがよくわかる本』
秀和システム 2011

授業概要

2年次の基礎演習は、3・4年次の専門演習・卒業論文に必要な知識と、延長線上にある就職活動する上での社会人として必要な教養を身に着けることが重要であると考えている。本演習では、会計学、特に、企業外部の利害関係者への報告内容を対象とする財務会計を学びの材料とする。財務会計で学ぶ内容は、企業の経済活動を記録する技術的な内容と、その記録に基づいて一定の様式で開示する制度的な内容がある。そこで、その両方の内容を授業では取り上げる。また、記録の対象が企業の経済活動であり、また、就職活動に備えることも考慮すると、新聞等を利用して、企業等の経済活動の現状を知る努力も受講生にはしてもらう。

授業計画

第1回	財務諸表に関する計算	第16回	決算整理と精算表の確認
第2回	商品売買（基礎）	第17回	見越
第3回	商品売買（手形）	第18回	繰延
第4回	商品売買（帳簿記入）	第19回	精算表の作成①
第5回	その他の債権債務	第20回	精算表の作成②
第6回	貸倒れ・有価証券	第21回	総合問題演習①
第7回	固定資産	第22回	総合問題演習②
第8回	資本金・税金・伝票	第23回	中間試験
第9回	決算整理と精算表	第24回	手形
第10回	損益計算書・貸借対照表の作成	第25回	繰延資産
第11回	中間試験	第26回	社債
第12回	試算表の作成①	第27回	株式
第13回	試算表の作成②	第28回	剰余金
第14回	伝票	第29回	特殊商品販売①
第15回	訂正仕訳	第30回	特殊商品販売②

なお、上記に加えて、毎回ゼミ生による課題報告を行う予定である。また、上記項目は目安であり、ゼミ生全体の進度により、変更・調整することがある。

到達目標

- ・ 質疑応答にこたえられる責任をもったレジュメ・レポートの作成と報告を行う。
- ・ 全経や日商主催の簿記検定に合格する。

履修上の注意

- ・ 初級簿記と会計学総論の単位を取得していること。
- ・ 登録前に必ず面談し、担当者の意図を理解した上で選択すること。
- ・ 通常の講義時間以外の活動（例えば、課題や指定するエクステンションセンター主催の講座の受講）を積極的に指示する。

予習復習

- ・ 予習：毎回、事前に作成した報告レジュメを作成する（ただし、受講者数により変更する可能性がある）。
- ・ 復習：簿記の内容については課題の提出する。またレポートを課すことがあるので、提出すること。

評価方法

- ・ 講義時における積極的な参加姿勢と提出された課題を重視して評価する。

テキスト

- ・ 簿記検定に関するテキストあるいは問題集（春期1冊、秋期1冊）を購入する。（書名は、開講時に指示する。）

授業概要

大学教育では学生の自主性が重視されるが、この自主性とは誰かに与えられた「問題」「テーマ」を自ら分析し答えを発見することが大切であるという意味ではなく、自分自身が答えを得たい「問題」「テーマ」を自ら設定し、自ら答えを得るという意味である。したがって本演習では、(1)全員で共通するテーマ(日本経済、日本企業の再生)を設定し議論するとともに、(2)各自が大学生活の4年間を通じて興味を持ち続けるだけの魅力的なテーマ設定し、分析することの二本立てで学習するように指導する。

授業計画

第1回	全体のスケジュールの説明	第16回	各自のテーマの報告と検討(第1回目)
第2回	日本経済の高度成長について	第17回	各自のテーマの報告と検討(第1回目)
第3回	日本経済の高度成長について	第18回	各自のテーマの報告と検討(第1回目)
第4回	低迷している日本経済の現状について	第19回	各自のテーマの報告と検討(第1回目)
第5回	低迷している日本経済の現状について	第20回	日本経済・企業の再生の道
第6回	低迷の原因について	第21回	日本経済・企業の再生の道
第7回	低迷の原因について	第22回	日本経済・企業の再生の道
第8回	IT企業(ソニーその他)の分析	第23回	日本経済・企業の再生の道
第9回	IT企業(ソニーその他)の分析	第24回	日本経済・企業の再生の道
第10回	IT企業(ソニーその他)の分析	第25回	各自のテーマの報告と検討(第2回目)
第11回	自動車企業(トヨタその他)の分析	第26回	各自のテーマの報告と検討(第2回目)
第12回	自動車企業(トヨタその他)の分析	第27回	各自のテーマの報告と検討(第2回目)
第13回	自動車企業(トヨタその他)の分析	第28回	各自のテーマの報告と検討(第2回目)
第14回	前半のまとめ	第29回	後半のまとめ
第15回	前半のまとめ	第30回	後半のまとめ

到達目標

勉学が当初の成果をあげることができるかどうかは、誰もが必要な基礎的な知識を習得した上で、各自の目標や価値観に応じて異なっている「問題意識」「テーマ」を的確に各自が設定し、自ら分析することができるかにかかっている。本演習では日本経済の現状についての基礎的な知識を全員で得るとともに、それをベースとして興味のあるテーマを各自が発見できることを目標とする。

履修上の注意

社会に出る前の4年間に身につけなければならないことは、必要な情報がどこにあるのかを発見し、それを解釈する力を養っておくことである。現在の情報はインターネット上にある。本演習での学習を通じて、社会で求められるこのような力を養ってくれることを希望する。

予習復習

毎回各自が予習復習することは必須である。とくに発表予定者はしっかりと予習すること。

評価方法

単位取得のためには2/3以上の出席が大前提である。なお、遅刻(開始時間の20分以後の出席は遅刻と見なす)は1/2回の欠席としてカウントする。この大前提のうえで、講義中の議論に積極的に参加したかどうか、自らのテーマを発見できたかどうか、その答えをどれだけ得たかを基準として評価する。

テキスト

未定。共通テーマとして、日本経済・企業の現状についての分かりやすい書籍、埼玉学園大学の情報メディアセンターを通じて無料でアクセスできる「日経BP」に収録された論文などを予定している。

授業概要

日本経済の発展を支えている日本の企業は、グローバル経済の進展と共に、厳しい生き残り競争を繰り広げている。時には、思いもかけない大企業が破綻するなど、規模が大きければ生き残れるという保証はどこにもない。そうした世界的な競争の激化の中で、すべての日本企業は時代の変化に対応すべく、日々経営革新に取り組んでいる。それは、けっして大企業にとどまらず、企業数でいうと 99%を超える中小企業においても取り組まれ続けている。

本演習では、皆さんの働く場として想定されている企業が、今どのような経営環境に置かれ、どのような問題に直面し、次代の発展に向けてどのような経営革新に取り組んでいるかを学ぶことを通じて、日本の経済社会のあるべき姿を見通す能力を身につけることを目的としている。

授業計画

第 1 回	演習の概要	第 16 回	後期演習の概要
第 2 回	企業とは何か	第 17 回	グローバル化と日本の大企業①
第 3 回	企業の役割は何か	第 18 回	グローバル化と日本の大企業②
第 4 回	企業で働くということは①	第 19 回	上記テーマについての発表と討議
第 5 回	企業で働くということは②	第 20 回	グローバル化と中小企業①
第 6 回	日本経済の中での日本企業の役割①	第 21 回	グローバル化と中小企業②
第 7 回	日本経済の中での日本企業の役割②	第 22 回	上記テーマについての発表と討議
第 8 回	日本の大企業の基本的特質は何か①	第 23 回	日本企業の直面する困難①
第 9 回	日本の大企業の基本的特質は何か②	第 24 回	日本企業の直面する困難②
第 10 回	日本の中小企業の基本的特質は何か①	第 25 回	上記テーマについての発表と討議
第 11 回	日本の中小企業の基本的特質は何か②	第 26 回	働く場としての日本企業への期待①
第 12 回	日本企業とは何かの発表と討議①	第 27 回	働く場としての日本企業への期待②
第 13 回	日本企業とは何かの発表と討議②	第 28 回	上記テーマに対する発表と討議
第 14 回	日本企業とは何かの発表と討議③	第 29 回	日本企業のあるべき姿とは
第 15 回	前期のまとめ	第 30 回	企業経営に対する関心事に向けて

各テーマに沿ったレポート作成を指示すると共に、発表を行う。

なお、上記の内容は、ゼミ生の人数、関心事、さらには進行度合いによって、変更・調整することがある。

到達目標

大学生として、自分で文献を読み、理解した内容をレポートにし、発表、議論できる能力を身につける。
特定のテーマに関して、他人と自分の考えがどのように違うのかを理解する能力を身につける。

履修上の注意

私たちが生きている現代の経済社会では、解決しなければならない問題が山積している。なにが問題なのか、なぜ問題が解決できないのか、どうすればいいかの問題意識を持って、日本経済、日本産業、日本企業、中小企業の実態に関心を持つことが、本演習を履修する上で重要である。

予習復習

- ・日本企業、中小企業に関する新聞記事等に関心を持つこと。
- ・各テーマごとに、具体的にレポート作成を指示する。

評価方法

- ・授業参加の姿勢や、レポート作成、発表等を総合的に判断して評価する。

テキスト

- ・テキストや参考文献については、必要に応じて演習中に指示する。

授業概要

本演習では、(1) 経済学・経済史に関する知識の習得と世界経済・日本経済の現状の理解、(2) 新書レベルの書籍を読解するスキルの向上、(3) プレゼンテーションやディスカッションのスキルの向上、以上の3点を到達目標として設定します。この目標を達成するために、経済に関する新書を各自最低1冊選択して、毎回、全員が各自の選択した新書の内容を報告する形で輪読していきます。その際、報告の内容についてディスカッションをおこないます。

授業計画

第1回	春期の開講にあたって	第16回	秋期の開講にあたって
第2回	新書の輪読(1)	第17回	新書の輪読(14)
第3回	新書の輪読(2)	第18回	新書の輪読(15)
第4回	新書の輪読(3)	第19回	新書の輪読(16)
第5回	新書の輪読(4)	第20回	新書の輪読(17)
第6回	新書の輪読(5)	第21回	新書の輪読(18)
第7回	新書の輪読(6)	第22回	新書の輪読(19)
第8回	新書の輪読(7)	第23回	新書の輪読(20)
第9回	新書の輪読(8)	第24回	新書の輪読(21)
第10回	新書の輪読(9)	第25回	新書の輪読(22)
第11回	新書の輪読(10)	第26回	新書の輪読(23)
第12回	新書の輪読(11)	第27回	新書の輪読(24)
第13回	新書の輪読(12)	第28回	新書の輪読(25)
第14回	新書の輪読(13)	第29回	新書の輪読(26)
第15回	春期のまとめ	第30回	秋期のまとめ

到達目標

以下の3点を到達目標とします。
(1) 経済学・経済史に関する知識を習得し、日本経済・世界経済の動向を理解すること
(2) 新書レベルの書籍を読解するスキルを向上させること
(3) プレゼンテーションやディスカッションのスキルを向上させること

履修上の注意

現代の日本経済・世界経済の動向や経済学・経済史に関心のある方を歓迎します。
過去の基礎演習ゼミ生が選択した新書の例を、参考までに挙げておきます。『原発のコスト』『日本農業の真実』『人はなぜ逃げおくれるのか：災害の心理学』『よくわかる日本経済入門』『介護：現場からの検証』『電気料金はなぜ上がるのか』『ジャガイモの世界史』など。

予習復習

予習：全員に対して、毎回レジュメを作成し報告する義務を課します。
復習：ディスカッションの内容を踏まえて、報告内容をブラッシュアップしてもらいます。

評価方法

ゼミでの積極性や発言、受講態度などを総合的に判断して評価します。

テキスト

各自が関心をもつテーマの新書を、全員に最低1冊ずつ選択してもらいます。

授業概要

ドラッカーは企業に必要なことはマーケティングとイノベーションだと述べている。現在の日本では多くの人が就職して企業で働くことになるため、この2つをどう理解するかで就職先を選ぶときも、選んだ後も企業に対する考え方が変わってくる。

本演習では、こうしたマーケティングについて学生の目線から理解できるよう、春期は学生に身近なコンビニエンスストア等小売業においてどのようにマーケティングが活かされているのか、秋期はマーケティングの全体像について企業の事例を通して指導する。

授業計画

第 1 回	春期の演習の概要	第 16 回	秋期演習の概要
第 2 回	小売業の類型①	第 17 回	夏期課題の報告
第 3 回	小売業の類型②	第 18 回	マーケティングの概念とその変遷
第 4 回	小売業の類型③	第 19 回	マーケティング戦略と管理
第 5 回	マーチャンダイジング①	第 20 回	市場機会の発見（環境分析）
第 6 回	マーチャンダイジング②	第 21 回	市場機会の発見（STP）
第 7 回	マーチャンダイジング③	第 22 回	消費者行動
第 8 回	ストアオペレーション①	第 23 回	製品戦略
第 9 回	ストアオペレーション②	第 24 回	ブランド
第 10 回	ストアオペレーション③	第 25 回	価格戦略
第 11 回	マーケティング①	第 26 回	プロモーション戦略
第 12 回	マーケティング②	第 27 回	チャネル戦略
第 13 回	販売・経営管理①	第 28 回	サービス・マーケティング
第 14 回	販売・経営管理②	第 29 回	顧客満足と従業員満足
第 15 回	春期演習のまとめ	第 30 回	演習のまとめ

到達目標

春期は小売業を中心に実際の店舗でマーケティングがどう活用されているのか、秋期はマーケティングを消費者の立場から理解してもらうことを目標とする。

履修上の注意

- ① 月に1回コンビニで販売されている新商品を購入し、ゼミ内でそれを選んだ理由を発表してもらう。
- ② 春期に1度特別講師を招き講演して頂く。その講演をもとに、さいたま市ニュービジネス大賞（学生部門）に応募してもらう。
- ③ 夏期休暇中に、学外授業として企業訪問や複数の企業の社長と話せる場等に参加してもらう。
- ④ 遅刻は厳格に扱う。
- ⑤ 課題レポートでのコピペには厳しく対処する。

予習復習

- ① 夏期・冬期休暇に課題あり（指定書籍1冊の読了とその感想）。
- ② その他毎回の講義の中で事前に課題を指示する場合がある。

評価方法

出席状況、演習への取り組み方、授業態度、提出課題の内容により、総合的に判断し評価する。

テキスト

テキストや参考文献は必要に応じて演習中に指示する。

授業概要

本演習では組織のマネジメントに関わる論点を幅広く取り上げて議論し、基礎知識を修得することを目標とする。テキストは経営学に関する基本文献を用い、テーマごとにレポーターを決めて内容発表する。発表されたテーマについては検討課題を与え、参加者が議論して理解を深めるよう指導する。演習で取り上げるテーマは大きく以下の6つのカテゴリーで構成される。

「組織の構造」(第2～6回)、「経営戦略とマネジメント」(第7～12回)、「経営者の職能」(第13～15回)、「経営管理と企業成長」(第17～21回)、「経営管理論」(第22～26回)、「経営の展開」(第27～31回)。

授業計画

第1回	ガイダンス(目的、方法、評価等)	第17回	経営管理と企業成長
第2回	組織の構成	第18回	経営の矛盾と発展
第3回	組織の設計	第19回	経営のパラダイム転換
第4回	企業統治	第20回	経営のパラドックス
第5回	資本の構造	第21回	場のマネジメント
第6回	雇用の構造	第22回	古典派的管理論
第7回	経営戦略の基礎	第23回	集団論的管理論
第8回	競争と差別化	第24回	組織論的管理論
第9回	経営資源の配分	第25回	環境論的管理論
第10回	人材マネジメント	第26回	戦略論的管理論
第11回	インセンティブ	第27回	ビジネスシステム
第12回	計画と管理	第28回	企業構造の変換
第13回	経営理念	第29回	国際化戦略
第14回	リーダーシップ	第30回	日本の企業家
第15回	経営者の職能	第31回	演習のまとめ
第16回	期末試験	第32回	期末試験

到達目標

本演習の目標は、経営学の基礎知識をテーマごとの発表と議論によって修得することである。

レポートの準備段階で、担当するテーマについていかに独自の視点を交えて内容を分析するか、またその結果をいかに分かりやすく参加者に還元して問題提起するか等、分析能力の向上に加えて、プレゼンテーション技術、議論の作法等の修得も目標とする。

履修上の注意及び予習・復習

履修者が毎回テーマをもとにテキストの担当箇所を順番にレポートする形式で演習を進める。発表後、履修者全員でテーマに沿って議論を行う。履修者は積極的に演習に参加することが求められるので、レポーターでない場合も事前にテキストの該当箇所を読んで参加することが必要となる。

遅刻はやむを得ない理由がある場合には配慮する。

評価方法

担当するテーマに関する発表内容、準備状況、議論への参画度等、演習に対する取り組み度合いを70%、期末試験を30%の割合で評価する。期末試験は学期中に取り上げたテーマに関して記述式で解答を求める。出題の意図を理解し、演習で学んだ内容を踏まえて論理的に解答しているかどうか重点を置いて評価する。

テキスト

伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門(第3版)』(日本経済新聞出版社、2003年)。